

1 小単元名 武士の世の中へ

2 小単元について

本小単元は、内容の(1)のウ「源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて調べ、武士による政治が始まったことが分かること。」を受けたものである。ここでの学習内容は、源頼朝が平氏打倒の兵を挙げたころから鎌倉に幕府が置かれたころまでの時期のうち、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いの三つの歴史的事象を取り上げ、これらを具体的に調べることを通して、武士による政治が始まったことが分かるようにすることをねらいとしている。

これまでの学習では、縄文時代の人たちの生活の様子を資料をもとに考えることから、日本の歴史について関心をもち、聖徳太子が目指した天皇を中心とする政治の仕組みや日本風の文化が起こったことを調べ、まとめてきた。

本学級は、歴史の本を読む姿が見られるなど、歴史に興味をもっている児童が多い。また、土器に触る体験や大仏の大きさを実感する経験を重ねることで、学習に意欲的に取り組んでいる。また、すでに歴史的事象を習得している児童もいる。しかし、その中には、歴史学習は暗記というイメージをもっている児童もいる。そのため、自ら疑問をもち、それを学習問題とし追究していくという問題解決的な学習の充実が十分ではない。また、単元の「調べる」の段階では、教科書や資料集を使って気付いたことやわかったことをノートに書くことはできているが、その資料からどのようなことが考えられるのかを書くことができている児童は少ない。そのため、歴史学習は暗記であるという意識をもつようになっていると考える。

そこで、本小単元では、問題解決的な学習の充実を図るために、「つかむ」の段階で設定した学習問題を意欲的に追究していくように工夫する。単元の学習問題を設定して調べ学習を進めていくが、学習が進むにつれて追究意欲が低下している児童の姿も見られる。そのために、「つかむ」段階での資料の精選だけでなく、「調べる」段階においても資料を精選することで追究意欲を持続できるようにしていきたい。そこで、「調べる」段階での1単位時間ごとの学習の導入で矛盾が生じる資料を提示して児童に疑問をもたせ、調べたいという気持ちをもたせるようにしていきたい。そのために、毎時の授業の中で効果的に資料を提示することで疑問をもたせるようにする。また、学習問題に対する自分の予想を考えるようにする。そうすることで、与えられた資料を読み取るだけでなく、自分の予想があっているのかを確かめるためにどのような資料が必要かを考えるようにする。そして、資料から読み取ったことをノートにまとめていく際には、資料からわかったことだけでなく、その資料からどのようなことを考えたのか、思ったのかを吹き出しで書く活動を学習を通して行っていく。そうすることで、歴史学習は暗記だけでなく、自分で考えていく学習であるという意識をもたせたい。

「資料から自ら疑問をもつ → 予想を考える → 予想を確かめるためにはどのような資料が必要なのかを考える → 予想があっているのか資料をもとに確かめる(考えたことを書く)」という学習を積み重ねていくことで、問題を追究していく児童を育てていきたい。

3 児童の実態（男子18名 女子19名 計37人）

①社会科（歴史）の学習は好きですか。

とても好き	好き	あまり好きではない	好きではない
8名	19名	8名	2名

（理由）

<とても好き・好き>

- ・歴史が好き（9人）
- ・調べ学習が面白い（6人）
- ・歴史上の人物や事柄を覚えるのが好き（5人）
- ・まとめることが好き（3人）
- ・知らないことを勉強するから
- ・社会情勢を知るのが好き
- ・歴史上の人物をよく知っているから
- ・戦国時代が好き

<あまり好きではない・好きではない>

- ・覚えるのが大変（5人）
- ・歴史が好きではない
- ・社会科が好きではない
- ・昔のことを知って役に立つとは思わない

②歴史を学習するのはなぜだと思いますか。

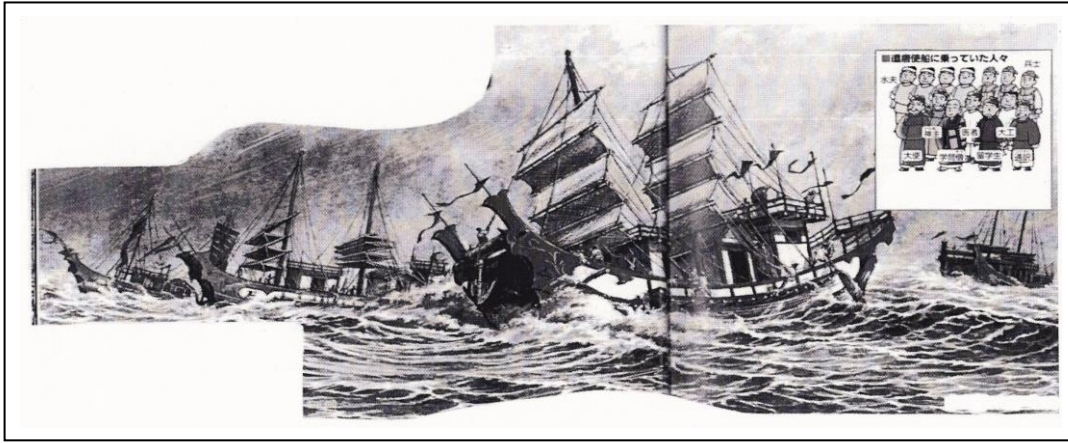
- ・大人になって使うかもしれないから（多数）
- ・文化をすることが大切だから
- ・テストに出るから
- ・過去の歴史を知り、より良い世の中を作り上げるため
- ・日本のことを深く理解するため
- ・日本がどのように変わるのか知るため
- ・日本人として知っておくことが大切だから
- ・日本の偉人を知るため

③次の言葉を知っていますか。

	知っている（説明できる）	聞いたことがある	知らない
貴族	24名	12名	1名
武士	27名	10名	0名
藤原道長	17名	12名	8名
平清盛	16名	13名	8名
源頼朝	18名	13名	6名
源義経	17名	16名	4名
幕府	16名	14名	7名
鎌倉時代	21名	14名	2名
ご恩・奉公	15名	9名	13名
千葉常胤	3名	12名	22名

④資料の読み取り

下記の資料を提示し、遣唐使の航海の様子であることを伝えた。その後、40せき送ったうちの12せきは沈没していることを伝えた。この資料から気づいたことや疑問に思ったことを書かせた。



<p><疑問が出せる></p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ苦労して中国（唐）に行ったのだろうか？（7人） ・なぜいろいろな人が中国（唐）に行ったのだろうか？（3人） <p>10人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・波が荒れていていったいどうするのだろうか？ ・どうやって中国語が聞き取れたのだろうか？ ・なぜ兵士がのっているのか？ ・乗っている人は船酔いしないのだろうか？ <p>10人</p>	<p><疑問が出せなかった児童></p> <p>17人</p>
--	--	---------------------------------------

<考察>

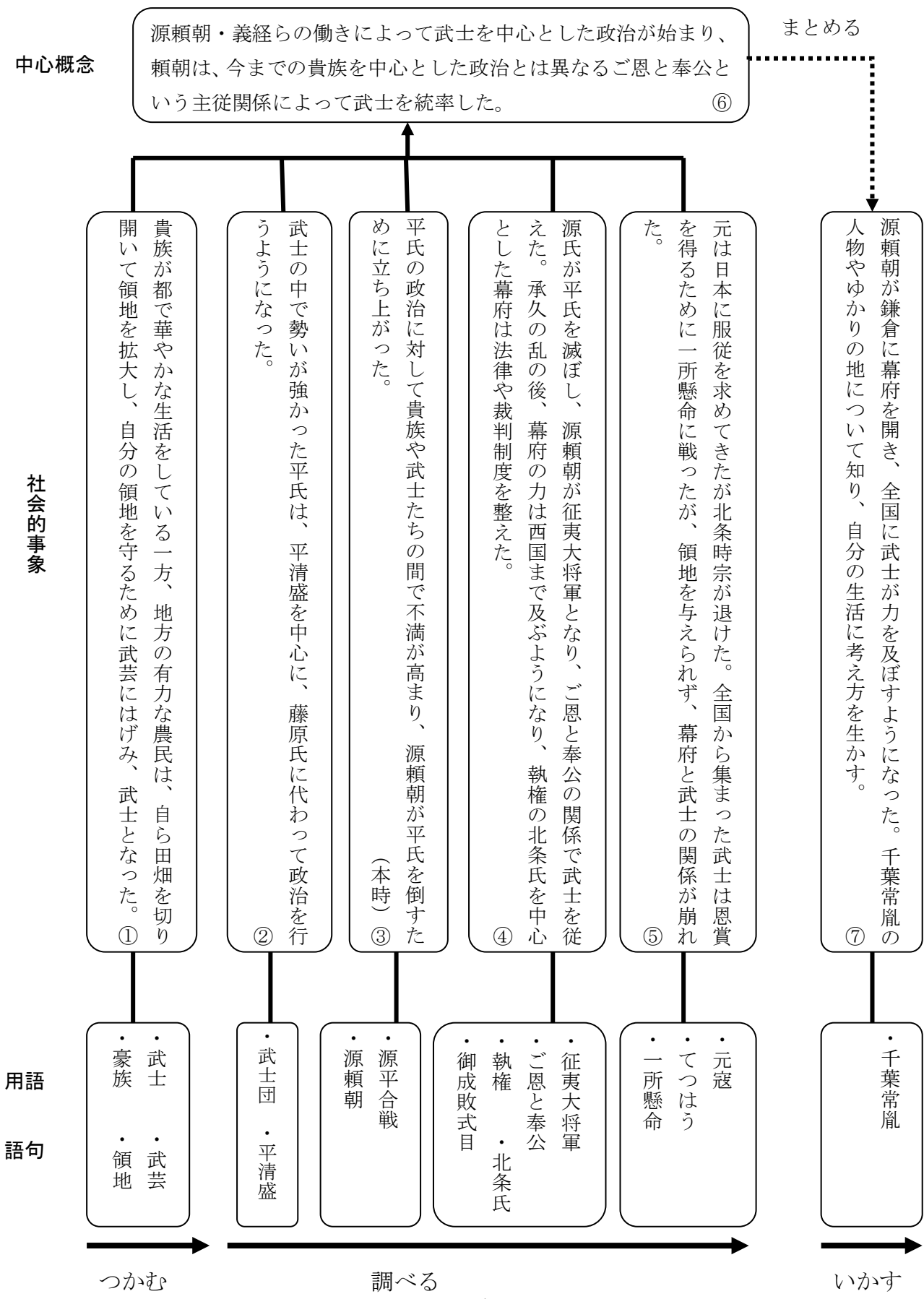
本学級の児童は、歴史に対して意欲的に取り組んでいる児童とそうでない児童に分かれている。意欲的に学習に取り組んでいる児童の中には、学習塾で学んでいる児童が多い。歴史の学習が好きではない児童の理由として挙げられるのが、「覚えることが大変」「覚えることが多い」というものがほとんどであった。また、好きと答えた児童の中にも。歴史は暗記する教科であるというイメージをもっている児童もいた。

歴史の語句に関しては、本小単元でおさえる語句を知っている児童も多い。すでに学習塾で学習したり、歴史が好きで普段歴史に関する本を読んだりしていることで、すでに知っていると答えた児童が多いと考えられる。

児童の「なぜ」から学習問題を立てるために、児童の中からどれだけの疑問が出せるかの調査も行った。資料から疑問を出せた児童は、20人と多かったが、それが学習問題につながるような疑問をだしている児童は、10人であった。その10人は、全員が歴史の学習が好きであると答えている児童であった。17人の児童は、資料から気づいたことを書くことはできているが、自ら疑問を出すことができなかつた。それは、資料の読み取りが不十分であることや資料への関心が不十分であることが考えられる。資料の読み取りが不十分であることから資料の読み取る視点を確認するようにする。資料への関心が不十分であることから映像資料とすることで視覚的に提示したり、歴史マンガを資料として活用したりする。

以上のことから、まずは意欲をもって取り組む手だてが必要だと考える。そのために、児童から「なぜ」という疑問を学習問題に設定し追究していくようにしていきたい。歴史学習が暗記であるという意識をもっている児童もいるので、資料を読み取りそこから考えたことや思ったことを吹き出しを使って書かせる学習を積み重ね、暗記という意識を変えていきたい。本小単元で問題解決的な学習を進めることで今後の歴史学習に意欲的に取り組んだり自分で考えたりする素地を育てていきたい。

4 知識の構造図



5 小単元の目標

- 武士の暮らし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物の働きや代表的な文化遺産に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。
- 武士による政治が始まったことやそれらにかかわる人物の働きや代表的な文化遺産について、地図や年表、その他の資料を活用して必要な情報を読み取りることができる。
- 武士の暮らし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物の働きや代表的な文化遺産を通して、武士による政治が始まったことを理解することができる。
- 武士による政治が始まったことにかかわる人物の願いや働き、代表的な文化遺産の意味について思考・判断したことを適切に表現することができる。

6 小単元の評価規準

観点	評価規準
社会的事象への 関心・意欲・態度	武士の暮らし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物の働きや代表的な文化遺産に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。
社会的な 思考・判断・表現	武士の暮らし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物の働きや代表的な文化遺産について、学習問題を見出して追究し、武士による政治が始まったこと、人物の願いや働き、代表的な文化遺産の意味などについて思考・判断したことを適切に表現している。
観察・資料活用の技能	武士による政治が始まったことやそれらにかかわる人物の働きや代表的な文化遺産について、地図や年表、その他の資料を活用して必要な情報を読み取り、まとめている。
社会的事象についての 知識・理解	武士による政治が始まり、武士の力が全国に及ぶようになったこと、元との戦いが鎌倉幕府の支配に大きな影響を及ぼしたことを理解している。

7 小単元の指導計画（7時間扱い）

過程	主な学習活動と内容	時数
つかむ	<p>①「武士のやかたの様子」を見て、武士の生活の様子、武士と貴族の違いなどについて気づいたことを話し合い、学習問題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 貴族のやしきと武士のやかたは雰囲気が違う。 ・ 武士は領地を守るために武芸にはげみ、武士となった。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>学習問題</p> <p>武士の登場によって世の中は、どのように変わり、武士は、どのような政治を行っていったのだろうか。</p> </div>	1
調べる	<p>②武士はどのように勢力をのぼしたのか、平氏による武士の政治の始まりについて「平清盛の年表」をもとに調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 武士は武士団をつくり、平氏と源氏が力をつけた。 ・ 平清盛を中心とする平氏が政治を行うようになった。 ・ 平氏が政治を思うままに動かすようになった。 <p>③源平合戦の「石橋山の戦い」と「富士川の戦い」の様子から、源頼朝が味方を増やすことができた理由を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「石橋山の戦い」で源氏が負けたが、2か月後の「富士川の戦い」では、源氏がたくさんの味方をつけて平氏に勝利した。 ・ 平氏の政治に不満をもっていたことや源頼朝が領地の所有を認めたことで頼朝が味方を増やすことができた。 <p>④鎌倉の地図やご恩と奉公の関係図、政子の訴えなどをもとに鎌倉幕府の特色について調べ、わかったことや考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 壇ノ浦の戦いで源氏が平氏を滅ぼした。 ・ 源頼朝はご恩と奉公の関係で武士を従えた。 ・ 承久の乱の後、鎌倉幕府の力は西国まで及ぶようになり、執権の北条市を中心とした幕府は、法律や裁判の制度を整えて支配力を強めていった。 <p>⑤元との戦いやその後の鎌倉幕府の様子について「恩賞を求める竹崎季長」の資料などをもとに、わかったことや考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 武士は、元との戦いで恩賞を得るために一所懸命に戦った。 ・ 幕府は、元との戦いで活躍した武士たちに新しい領地を与えることができず、ご恩と奉公の関係が崩れた。 	<p>1</p> <p>1 (本時)</p> <p>1</p> <p>1</p>

まとめる	⑥武士の誕生から元寇までをまとめる。 ・武士にとって大切なものは、領地であった。 ・元との戦いにより、大切にしていた領地を恩賞としてもらえなかったのが、幕府と武士の信頼関係が崩れた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 源頼朝らの働きによって武士による政治が始まり、ご恩と奉公の関係によって武士を統率した。しかし、元との戦いにより、ご恩と奉公の関係が崩れた。 </div>	1
いかす	⑦千葉に残る鎌倉時代のエピソードを調べる。 ・千葉常胤のエピソードを調べる。	1

8 市教研社会科研究主題のための方策

「みえる わかる・・・いかす」
よりよい社会の形成に参画する力を育てる社会科学習

本年度主題解明のための方策（市教研社会科部会研究計画より）

- ① めざす子どもの姿、習得すべき概念、身に付けさせたい力の明確化
- ② 追及意欲を高め、社会認識が深まり、参画への意識が育つ教材の開発
- ③ 主体的に学び、参画への学習意欲が高まる学習過程の工夫（問題解決的な学習の充実）
- ④ 社会認識の深まりや社会に参画する力を見取る評価の工夫

本小単元では、研究主題の中から次の点に留意して指導及び評価に取り組んでいきたい。

- ① めざす子どもの姿、習得すべき概念、身に付けさせたい力の明確化

<学習問題を立てるための工夫>

本学級の児童は、資料から自分の疑問を出し、それを学習問題として追究していくという学習がまだ十分とは言えない。そのため、歴史学習が好きな児童は、主体的に調べたりまとめたりしている様子も見られるが、嫌いな児童にとっては、そのような姿が見られないこともある。

そこで、導入における資料を工夫し、児童の「なぜ」が学習問題となるようにすることで、問題解決的な学習が充実すると考える。そのための手立てとして、効果的な資料の提示を工夫する。映像資料を活用したり、資料を提示する順番を工夫したりする。児童が「なぜ」と疑問をもち、それに対する予想を考え、見通しをもって調べることができるようにすることで、意欲的に追究していく姿が見られるだろう。

④ 社会認識の深まりや社会に参画する力を見取る評価の工夫

＜「吹き出し」を使ったノート＞

児童の中には、資料から読み取ったことを書くことができていることは多い。しかし、読み取ったことからどのようなことが考えられるのかということまで表現することができる児童は少ない。歴史的事象からどのようなことが言えるのかを考えることが、歴史学習においては社会に参画する力の一つではないかと考える。

そこで、資料から読み取ったことをまとめるだけではなく、そこからどのようなことが考えられるのかを書くようにする。その際にわかったことと自分で考えたことを区別するために、考えたことは「吹き出し」で書くようにする。そうすることで、児童自身も自分の考えを書くことで歴史的事象に対して深めることができ、教師も見取る手立てとなると考える。

＜歴史的事象に対する自分なりの評価＞

本小単元では、鎌倉幕府の政策（ご恩と奉公の関係）や源頼朝という人物などについて自分なりに点数をつけ、その理由も書かせる活動を行うようにする。この活動を歴史学習を通して積み重ねていくことで、違った立場から事象を捉えることができるのではないかと考える。

歴史的事象（出来事や政策、人物）に対して児童自身が調べたことを違った立場からとらえ、それをもとに評価する活動を行うことで、歴史的事象に対して理解を深めるだけではなく、社会に参画する素地を育むと考える。

9 本時の指導（3／7）

（1）本時の目標

- 源平合戦の様子から「なぜ頼朝に味方をしたのだろうか。」という問いをもち、予想を考えることができる。（思考・判断・表現）
- 資料から源頼朝が味方を増やすことができた理由について読み取ることができる。

（技能）

（2）本時の展開

時配	学習活動と内容	○教師の支援 ◆評価の観点	資料
3	1 前時の振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の領地を守るために、武芸に励み、武士が誕生した。 ・武士の棟梁として「平氏」と「源氏」が出てきた。 ・平氏（平清盛）を中心とした政治が行われていた。 ・平氏一族が朝廷の中で強い力を持ち、政治を思うままにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「武士にとって領地が大切であること」「平氏一族が朝廷の中で強い力をもっていたこと」を強調しながらおさえることで、学習問題の予想を考える上での一つの根拠となるようにする。 ○前時までの学習の掲示物を確認しながら振り返るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平清盛の肖像画 ・源頼朝の肖像画 ・前時までの学習の掲示物

7	<p>2 源平合戦の「石橋山の戦い」と「富士川の戦い」を取り上げ、疑問をもち、学習問題を設定する。</p> <p><石橋山の戦いでの勢力></p> <table border="1" data-bbox="236 383 715 483"> <tr> <td>平氏</td> <td>源氏</td> </tr> <tr> <td>3000</td> <td>300</td> </tr> </table> <p><富士川の戦いでの勢力></p> <table border="1" data-bbox="236 533 715 633"> <tr> <td>平氏</td> <td>源氏</td> </tr> <tr> <td>70000</td> <td>200000</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 源氏が石橋山の戦いで負けた。 富士川の戦いは、石橋山の戦いから2か月しか経っていない。 2か月で20万人の人が源氏の味方をしている。 なぜたくさんの人が源頼朝の味方をしているのだろう。 なぜ負けた方に味方をしたのだろう。 	平氏	源氏	3000	300	平氏	源氏	70000	200000	<ul style="list-style-type: none"> ○資料に着目させ、考えを交流しやすくするために、全員を集めて提示する。 ○源平合戦の進軍の様子と年表を順に提示することで、一つずつ丁寧に資料を確認できるようにする。 ○源平合戦の進軍の様子を提示し「石橋山の戦い」と「富士川の戦い」の位置や源氏の進軍の様子を映像資料で提示することで視覚的にわかりやすくする。 ○「石橋山の戦い」と「富士川の戦い」の間が2か月という短期間であることに着目させるために、月を表示した年表を提示する。 ○源氏の人数が「300人」から「20万人」に急増したことに着目させるために、児童に予想させながら数字を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・源平合戦の進軍の様子（石橋山の戦いと富士川の戦い） ・年表 ・平氏と源氏の勢力
平氏	源氏										
3000	300										
平氏	源氏										
70000	200000										
10	<p>3 学習問題に対する予想を考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平氏の政治に不満をもっていたからだろう。 源頼朝が呼びかけたからだろう。 武士が大切にしていた領地を与えたからだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○根拠をもって予想を考えるように助言する。 ○武士が誕生した経緯や平氏の政治について既習事項を想起させることで予想が考えられるようにする。 ○一人で考えた後に、小グループで話し合い、いろいろな考えを交流するようにする。 ◆源平合戦の様子から「なぜ頼朝に味方をしたのだろうか。」という問いをもち、予想を考えている。 (思考・判断・表現) 【概ね満足できる状況】 学習問題の予想を考えることができる。 【十分満足できる状況】 既習事項や生活体験をもとに根拠を 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード 								

20	<p>4 資料から理由を考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平氏の政治が貴族のようになり不満をもっていたので、源氏に味方をした。 ・源頼朝が武士の棟梁として信頼されていたから。 ・源頼朝が武士のための政治を行うことを約束したから。 ・源頼朝が、武士にとって大切な領地を守ると約束したから。 	<p>もって予想を考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○予想で話し合ったことを想起させ、「平氏の政治」や「武士にとって領地が大切」であることに着目するように助言する。 ○グループで調べていくことで、様々な理由を考えることができるようにする。 ○資料コーナーに資料を置き、グループごとにどの資料で調べていくかを判断するようにする。 ○資料から考えたことや思ったことを吹き出して書くように助言する。 ○全体で発表する際には、どの資料からわかったかを根拠を示しながら発表するように助言する。その際に、全体でどの資料なのかを確認できるようにテレビに資料を映すようにする。 ◆資料から源頼朝が味方を増やすことができた理由について読み取っている。(技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料集 ・教科書 ・学研まんが 日本の歴史⑤ 源氏と平氏 ・千葉の歴史 頼朝の挙兵を ささえた房総 の武士たちの 一部抜粋
5	<p>5 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>武士たちは、源頼朝が領地の所有を認めることを約束してくれたり、平氏の政治に不満をもっていたりしたので、味方をした。</p> </div> <p>6 次時の学習の予告をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富士川の戦い以降、源平合戦はどのようなようになるのかを予想する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・源平合戦の進軍の様子